

会議録

1. 開会

2. 話題

(市長)

本日は、お忙しい中、令和6年度第3回の定例記者会見へお集まりいただきましたこと、心からお礼を申し上げたいと思います。

それでは早速ですが、今回は4点について、私の方からお話をさせていただきます。

(1) 千歳駅西口広場のロータリー化について

西口広場については、広場を分断しているバスレーンにより、「歩行者動線や公共交通機関の乗換がわかりにくい」、「バスレーンの乱横断により危険である」といった課題があったことから、これに対応するため、令和2年1月に「千歳駅前広場再整備基本計画」を策定し、「便利な交通と賑わいが一体化した交流拠点づくり」をコンセプトに、バスレーンを廃止し、西口広場をロータリー化することで、路線バスなどの乗換や、広場内の移動が円滑に行えるよう、整備を進めているところであります。

整備の進捗については、令和4年度、東口広場において、マイクロバス乗降場の整備や、老朽化した施設の更新を行ったほか、令和5年度には、西口広場において、一般車乗降場などの整備を行っております。

本年度は、バスレーンの廃止とバス停留所などの整備を行うこととしており、これにより、JR千歳駅とステーションプラザの間が繋がり、車道を横断しなくて済むということで、安全に移動ができるようになります。

工事については、まず11月末に、現在のバスレーンを閉鎖し、バス停留所の変更と仮歩道の設置を行います。

また、郵便局側の広場整備では、空港開港100年をイメージし、千歳に初めて着陸した『北海第1号』のプロペラをモチーフとした休憩施設等の設置を計画しており、舗装工事等を含め、3月末の完了を予定しております。

なお、千歳駅前バスターミナルの「バスのりば」については、12月1日の始発便から変更が生じますので、路線バス利用者の皆さまには、ご理解をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(2) 新たな交通システムの実証実験について

本年度、路線バスの運転手不足の対策として、新たな交通システムの導入を検討し、「自動運転バス」と「AI オンデマンド交通」の実証実験を行っております。

「自動運転バス」については、10月30日、北ガス文化ホールにおいて、「次世代モビリティシンポジウム～自動運転技術の『いま』『みらい』～」を開催し、自動運転の社会実装に向けた機運の醸成と、社会受容性の向上を目的に、講演やパネルディスカッションを通して、自動運転技術の進展状況や、安全性等についての説明と意見交換が行われたところであり、公共交通の将来像などについて、理解を深めていただけたものと考えております。

シンポジウムには、多くの皆さまに会場していただいたことに感謝申し上げますとともに、関心の高さが伺えるものでありました。

また、実証実験については、10月30日から11月27日までの約1ヶ月間、千歳駅と向陽台地区を結ぶ区間で、大型バスにより、運転席に運転手が座り、運転手が危険と判断した場合にハンドル操作などを行う「レベル2」を行っております。

進捗状況については、11月14日までにシステムの調整や運転手の研修を行い、15日に関係者の試乗会、本日から27日までの、土・日・祝日を除く8日間で、一般試乗会を実施することとしております。

市民の皆様には、この機会に試乗していただき、安全性や走行性などを体験していただきたいと考えております。

実証実験終了後においては、走行状況を検証し、令和9年度までに一定条件のもと、システムが運転業務を担う、自動運転レベル4の実現を目指してまいります。

次に、「AI オンデマンド交通」についてであります。10月中に、向陽台地域の市民を対象として、登録や予約方法などの、説明会等を行ったところであり、実証実験については、11月1日から翌年の1月31日までの3か月間、向陽台の住宅地エリアにおいて、実施いたします。

利用状況については、11月17日までの17日間に延べ174人の利用があり、利用者からは、「移動が楽になった」、「これからたくさん利用したい」という声がある一方で、「運行時間の幅を広げて欲しい」、「スマートフォンに不慣れな高齢者でも利用しやすくして欲しい」などの声もありましたことから、実証実験終了後には、検証をしっかりと行ってまいります。

私も、「自動運転バス」と「AI オンデマンド交通」にりましたが、これらの新たな交通システムが実現した場合には、路線バスを補う新たな公共交通として、期待できるものと実感したところであります。

今後、しっかり実証実験の検証を行い、経験値を積んだ上で、新たな交通システムの実現を目指し、持続可能な公共交通の維持・確保に努めてまいります。

(3) 空港開港100年記念ロゴマークとキャッチフレーズの活用について

令和8年10月22日に、空港開港から100年の節目を迎えますことから、空港開港100年をPRするため、ロゴマークとキャッチフレーズを公募したところ、ロゴマークに528件、キャッチフレーズに2,289件の応募があり、市民投票を経て、受賞作品が決定したことから、新千歳空港で開催された、9月8日の「空の日」のイベントでお披露目を行いました。

ロゴマークについては、市内みどり台の、脇江(わきえ)大輝(はるき)さんの作品が最優秀賞に、キャッチフレーズについては、兵庫県加古川市の、内橋(うちはし)弘文(ひろふみ)さんの作品『翼に夢を乗せて次の100年へ』が、最優秀賞に決定しましたことから、この度、ロゴマークとキャッチフレーズを、「千歳市空港開港100年記念特設サイト」に掲載しましたので、ぜひ、ご活用をお願いいたします。

なお、このロゴマークとキャッチフレーズは、空港開港100年をPRするためであれば、誰でも使用していただくことができますが、ご使用にあたっては、特設サイトに掲載している「ガイドライン」を、ご確認願います。

また、ご使用にあたっては、特設サイトの「届出フォーム」からの届出が必要になりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

市としましては、今後も、空港開港100年に向けて機運を醸成しながら、記念となる節目をまち全体で祝賀できるように、市民の皆さまをはじめ、実行委員会と連携し、記念事業の準備、検討を進めてまいります。

(4) 次世代半導体関連事業について

1点目は、工事等の進捗状況についてであります。

ラピダス社の半導体製造工場「IIM-1」の建設工事につきましては、地上躯体工事、内装・外装工事、設備工事などが進められており、本日時点において、現場には、4,400～4,500人の作業員が従事しております。

パイロットライン稼働までの、工事全体の進捗率としては、11月15日時点で67.0%であり、建設スケジュールどおり、順調に進んでいると伺っております。

今後は、年末から、半導体製造装置の搬入と設置作業が始まると伺っており、引き続き事業者と連携しながら、必要な対応を行ってまいります。

2点目は、半導体関連企業の本市への立地状況についてであります。

前回7月の本定例記者会見以降におきまして、まず、市内工業団地につきましては、流通業務団地に、「シービーアールイー 株式会社」が設立した「千歳ヤマセミ特定目的会社」が立地したほか、新千歳空港ロジスティクスセンターに、「DHL eコマースジャパン 株式会社」が立地しました。

いずれも、物流倉庫を建設する予定と伺っております。

次に、市内のオフィス立地状況につきましては、8月に、産業空調自動制御設備や、中央監視設備の設計・施工を行う「株式会社 アルファス計装」、9月に、半導体露光装置の製造・販売を行う「エーエスエムエル・ジャパン 株式会社」及び、化学品等の輸出・輸入及び国内販売を行う「長瀬産業 株式会社」並びに、マニュファクチュアリング・サービス事業を行う「株式会社 フジワーク」、10月に、機械・電計・建設等の設計・施工・メンテナンスを行う「日鉄テックスエンジ 株式会社」、11月に、半導体エンジニアリングサービスを行う「KMT 株式会社」及び、事務職・専門職の人材派遣事業、人材紹介事業を行う「パーソルテンプスタッフ 株式会社」並びに、半導体製造装置のフィールドサービスを行う「東京エレクトロンFE 株式会社」が、それぞれ市内に、サービス拠点を設置されたところであります。

本市といたしましては、今後も企業ニーズの把握に努めるとともに、きめ細かな支援を通じて、半導体関連企業の集積に向けて取り組んでまいります。

3点目は、「千歳市半導体情報ウェブサイト」における、新たなコンテンツの公開についてであります。

本年3月に開設し、本市の半導体関連情報を一元化して発信している「千歳市半導体情報ウェブサイト」において、新たにラピダス社の次世代半導体プロジェクトに関する動画「半導体攻略クエスト～ラピダス社 次世代半導体プロジェクト編～」と、半導体の進化によって、暮らしが便利になったまちを表現した「半導体が進化した未来の街」の、2つのコンテンツを公開しました。

どちらも幅広い年代の方に楽しんでいただける内容となっており、今後も随時、コンテンツを拡充していく予定です。

市としましては、引き続き、本ウェブサイトを活用した様々な情報発信を通じて、本市における、半導体関連事業の理解促進を図ってまいります。

3. 質問及び意見交換

(記者)

自動運転バスの件です。道内で先行する他の自治体の例では、実証実験に使う車両は、10数人乗りの小さい車両を使って始めているところが多いのですが、千歳市の場合、普通の定期路線バスのような大型バスを使っています。この違いはどういうものなのでしょうか。それから、AI オンデマンド交通ですが、これは自動運転バスが令和9年度までにレベル4の実証を目指すということだったので、その間のつなぎと位置づけでいいのか、自動運転バスとの関連性について詳しくご説明願います。

(市長)

北海道の中でも、既に先行して行っているところがありますが、ほぼ大型バス以外の車両を使っているとお聞きしています。私も実際試乗して、担当の方にお聞きしてみましたけれども、やはり大型バスと小型バスでは操作性に違いがあるということで、小型車両の方が自動運転化に取り組みやすいとお聞きしております。今回、路線設定が向陽台と千歳駅という、導入しやすい幹線道路ということもあって、今後路線バスを補完できるような体制を考えたときに、まず、大型のバスを導入した上で、いろいろな実証実験をして、経験値を重ねてデータを蓄積した方がいいという判断だと思っています。2点目は、AI オンデマンドと自動運転のタイミングということだと思いますが、自動運転がレベル4になるまでのつなぎということではなくて、AI オンデマンドは向陽台の住宅地の中に停留所を30数か所設けてやっていきますので、その時に自動運転にならなくても幹線道路に2つの乗り降りするポイントを設けることにしています。AI オンデマンドと幹線道路を組み合わせることで、向陽台と市街地の交通の利便性を上げるということを考えています。

(企画部長)

自動運転バスの実証実験に大型バスを導入した部分から補足をさせていただきます。概ね市長が申し上げていたとおりです。自動運転について言えば、小型の方が導入しやすいという面もありますが、一方で向陽台地区については、人口8~9,000人います。路線バスに置き換わるとすると、小型バスでは輸送人員としての能力が足りないですので、大型バスで実証実験を始めようとなりました。北海道の地域で大型バスでの自動運転の実証実験というのは初めてだと思います。我々としてはここで経験値を積んで、大型バスの自動運転化がどういう課題があるのか、さらにはレベル4に向けて取り組んでいきたいという考えです。次にAI オンデマンドとの関係です。これも概ね市長からお話をしたとおりでございま

す。自動運転バスの実用化に向けたつなぎということではなく、バスの体系を幹と枝の形でいうと、例えば路線バスについては幹の運行をしています。ただ、地区内については枝葉の動きで、それをオンデマンド交通で担う、そのような新しい交通体系の仕組みを今回実証実験してみようということです。現状では、向陽台地区の住宅地を含めて、路線バスがしっかり走っていますので、あくまで将来の運転手不足ですとか、今後の路線バスの維持が難しくなった場合に備えてということも含めた実証実験をしております。以上です。

(記者)

先ほどラピダス社の工場の建設の進捗状況についてご説明があったのですが、従前いただいていた作業人数計測のピークの数と、若干ずれがあるように感じます。先日小池社長が札幌で工事は順調だったという趣旨のご講演をなさったことを存じているのですが、そのずれというのはあまり考慮しなくていいのかということと、千歳市に対してラピダス側からどんなご説明があったのか、それについて教えてください。

(市長)

工事の状況は先ほどもお話ししましたように、順調に進んでいるということ、工程どおりオンタイムで進んでいるということで報告いただいています。人数の関係も、本体工事、躯体、それに設備の人員がかぶさってきて、ピークを迎え、少しずつまたそれが減少していくという話をお聞きしていました。大きな工事になれば一定の幅の範囲の中だと思っていますので、工程のずれと、それは別だと思えます。

(記者)

特に今後のスケジュールに影響があるようなずれではないですか。

(市長)

従来どおり、年末から来年にかけて装置関係もいろいろな設備の搬入が行われると聞いていますし、来年度に向けてはパイロットラインということでお聞きをしています。

(記者)

ラピダス社にも若干関係するのですが、先月末の衆院選の結果で、古くは安倍政権、菅政権、岸田政権と勢力図が変わって、自民党系の議員さんが苦杯をなめるケースが多くありました。千歳市が入る北海道 5 区も前職の和田義明さんが落選するという形になりました。

和田義明さんもそうですが、全国的に見ると、甘利明さんのように半導体産業とか半導体事業に対するバックアップを今まで一生懸命なさってきた議員さんが、表からいなくなったような状況になっているのですが、この影響の受け止めについて教えてください。

(市長)

次年度の予算編成に向けて、私どももいろいろな案件を抱えていますので、道内や全国でも同じような課題の協議会を作っており、中央への要望運動で毎週上京しているところです。その中で、今お話がありましたように半導体議連というのが、自民党の中にあります。会長職が、残念な結果になったということがありますが、今後、議連の中でもいろんな体制の整備もしていただけるという動きをしています。いずれにしても、大きな影響はないというか、既にルールに乗って、国家的プロジェクトとしてスタートして、今やっていますので、それに対して影響が出ないように、地元の取組だとかをお願いしていかなければならない部分もあります。関係議員等も含めてしっかりと説明をして、予算等の対応についてもお願いをしていくということになります。当面は、例えば全体では半導体の支援だとか、国会の方でもやっていかなきゃならないと思いますし、私どもとしてのインフラ整備の交付金の予算確保だとか、そういった具体的なものもお願いしていかなければなりませんので、しっかりと影響がないようにしていくということです。

(記者)

半導体事業だけではなくて、今後の全体のまちづくりとか、進めていくべき政策への影響というのはあまりお感じにはなっていないですか。

(市長)

今まで、前衆議院議員の和田先生には、本市の特性である空港だとか自衛隊、さらには昨年来の半導体、いろんな主要な課題、国政と連携してつながっていく課題については一生懸命やっていただいたということがあります。いろんな方々に従来問わずお願いすることになりますので、影響がないというわけではないですが、私たちも今後さらにそういう政策や課題が滞ることがないように、進めてまいりたいと思っています。

(記者)

この選挙区で当選された池田議員は市長とどういう協力関係になるのですか。

(市長)

今回、ご当選された池田まきさんは、従来から存じ上げていますし、以前、国政の場にもいらっしやいましたので、私も職員の際にいろいろなお話をしたり、市長になってからも会いする機会がありました。市民生活、物価の関係、生活に直結する課題だとか、従来からの本市の課題、そういった部分を解決できるようにご支援をいただきたいという気持ちでいます。

(記者)

会見内容と異なりますが、2点あります。まず1点目です。前回の市議会でも話題になりました宿泊税のことでお伺いしたいことがあります。弊紙の報道で恐縮ですが、道議会の方で、後志の倶知安町と税のかけ方が違うということで、道議会での宿泊税の議案の提出が不透明になっているのではないかという報道をさせていただきました。今回、市議会の方でもいろいろな意見があって、理解される方がいる一方、強い反発もありました。2026年4月の北海道の導入に合わせてというスケジュール感で、市長も今までお考えを表明されてきたと思うのですが、この段階で、例えば、道議会の動きを見計らいつつ、2026年4月にこだわらず、あり方を議論するなど、お考えがあるのか、お伺いできればと思っています。

(市長)

今後の時期は、一定程度目安を示しながら、議会の方とも協議を進めているところですが、まだ議論が熟したところに至っていないという部分もありますので、より丁寧に、何が課題になっているのかということとをさらに説明をさせていただきながら進めたいと思っています。一方で、これまでの観光施策に加えて、さらに魅力を生み出す上で必要となる施策へかかる事業費を確保するためには宿泊税が必要だという認識は変わりません。市内の事業者の皆さんについても、会議体を通じてご理解をいただいているところでもあります。さらに広範囲に理解いただけるように進めてまいりたいと思います。また、北海道の取組があるからには、事業者負担が極力少なくなるようタイミングを合わせるというのが基本で、これまでも北海道のスケジュールに合わせる形でやりたいとお話をしてきましたが、まだ具体的にお聞きしておりませんし、額の話じゃなくて、率と額の取り扱いの話なので、今後の情報収集もしていきます。私どもの時期も含めてどうなっていくのか、それによって影響が出てくると思います。

(記者)

次の 12 月の議会に出したいというお気持ちは現時点では変わらないということでしょうか。それとも、そこも含めて検討するというのでしょうか。

(市長)

今担当と調整中です。

(記者)

もう 1 点ですが、先ほどの新しい交通システムの話とも若干関連するのですが、この夏に向陽台地区で路線バスを運行している千歳相互観光バスと、その組合の間で、労使合意をする条件として、最終バスの時間を元にできるだけ戻していくと取り決めが交わされているかと思います。12 月で繰り上げからまた 1 年経つということで、市で開発されたニュータウンで、その利便性をすごく大事にされているということを繰り返しておっしゃっていたと思うのですが、改めて行政の立場から、早期回復、市内の交通を守るという目線で働きかけや、今後考えていることがあれば教えてください。

(市長)

利便性を上げるために、例えば最終便を繰り下げて、向陽台地区の皆さんが乗降しやすいような環境づくりを進めるというのが大事だと思っています。まだ具体的にそこに至ってはいなく、事業者としてのいろいろな状況、例えば人繰りだとか、いろいろな課題もあるとお聞きしていますので、引き続き、情報を共有しながら協議を進めていきたいと考えています。

(記者)

学校給食のことに関して、お聞きします。まず 1 点、この学校給食センターをどうするかというのがあるかと思うのですが、現段階で新築すべきと考えているのでしょうか。市議会の時にも改築するのがいいのか、3 パターン出ていたかと思いますが、市としてどう考えているのか、お聞きしてもいいですか。

(市長)

今年度基本計画を策定すべく、そろそろまとめる時期が来ていると思います。基本線は従来からお話をしてお示しをしているように、新築プランということですが、改築だとか増築だ

とかというのは、以前から議論になっており、3つのパターンそれぞれ課題はあって、例えば事業費を含めていろいろな課題がある中で、市として選択しているのは新築でいこうということです。今まとめにかかっていると教育委員会の方から聞いています。

(記者)

施設の中でご飯を炊飯する部門が、現段階で別にアウトソーシングされており、もりもとの方でご飯を炊いていると認識しているのですが、新しい施設の方では全部一緒にやるという考え方ですか。それとは別になるのですか。

(市長)

基本計画の中では従来どおりと聞いております。

(記者)

それはお米を炊くことが大変だからアウトソーシングするのか、それとも安くなるからでしょうか。普通だったら一緒くたにやった方が全てスムーズではないのかなという認識を持っています。給食費を上げるか上げないかという問題も出ていますので、少しでも安くするための方法なのか、それとも既存だからその流れでいこうと考えているのか、どちらの方に考えていらっしゃいますか。

(市長)

おそらく全部フルでやると、建物の規模だとか、建設費が増加をしているということもあって、それに加えてさらに規模が大きくなるということが指標にあると思っています。それ以上の詳しい中身や、どんな検討をされたのかというのは、教育委員会の計画がまだ私のところに上がってきていませんが、今のアウトソーシングというパターンで計画をしているとは聞いています。

(記者)

続いて給食費の件で、実際、給食費を値上げする、値上げしないというところに関しては、現段階では来年度上げる方向で進んでいると聞いていいですか。

(市長)

一旦、今年上げる時期を延ばしたということで、それで来年の4月からということです。

物価の高騰している部分は行政で、予算措置をして補助する。それ以外の部分については、保護者の方をお願いしたいということで説明をして、その時点で時期を来年までずらしましょうとお話をしているかと思います

(記者)

4月からは値上げするということになるということですか。

(市長)

保護者の方にもアナウンスをしていると承知をしています。

(記者)

値上げするというのは既定路線で考えているということですか。

(市長)

そのように進めています。

4. 閉会